

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催 第18回ピア・スーパービジョン報告



会場の様子と古谷野亘人間福祉学部長・教授

2016年9月24日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第18回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet〔聖学院ウェルフェアネット―卒業生を中心とする福祉のネットワーク〕共催）が行われた。開会の挨拶は、牛津信忠氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授・前学部長）が務められた。総合司会は、山田裕太氏（SWnet）が務められた。

第1部の講演は、古谷野亘氏（聖学院大学人間福祉学部長・教授）が担当された。引き続き行われた鼎談は、古谷野氏と、酒井貴子氏、南里祐介氏がパネラーを務め、深瀬久博氏（SWnet代表）がコーディネーターを務められた。午後のスーパービジョンでは、冒頭で深瀬久博氏が導入を担当された後、ピア・スーパービジョンを行った。

古谷野氏の講演は、「高齢者が日常生活において交流している他者との関係：その分類と把握」と題されて行われた。若者の場合、人生経験を重ねていくにつれて「付け加わっていく」人生であるのに対して、高齢者は何かが「抜け落ちる」人生である。例えば、配偶者や親しい友の喪失などである。そのような大きな生活変化の出来事が起こった際に、いかにその変化に適応していくかは、自分の持つリソース（他者・財産・健康）の多さに

依存している。特に、他者との関係の有無は環境の変化に伴うストレスの緩和において重要である。地域交流も同様である。

「家族」という関係は、従来と比べて、絶対的な単位ではなくなってきているが、依然として特別な存在であることは変わりなく、重要なサポートの源泉である。しかし、家族・親族以上の他者の存在は、ある面では、家族以上の存在となりうる。その意味で、家族を含めた「他者」を、どのようにして意識していくかが大切である。「他者」は、家族も含め、「目的内関係の他者」「場を共有する他者」「特に親密な他者」の三つに分類できる。この三つの関係が重なり合うような「他者」は、ほんのわずかな人数にすぎないであろう。しかし、目的内関係の他者、場を共有する他者との関係を、絶えず持ち続けていることは重要である。

鼎談では古谷野氏に加え、本学の卒業生である酒井氏及び南里氏が、現場の状況を踏まえつつ、講演に対するレスポンスを行った。古谷野氏は、酒井氏が働く成年後見人制度をサポートする職場の理事を務めておられ、今日の成年後見人の複雑な状況を丁寧に説明された。また、男女間の関係構築の差や、サポートの仕方の違いなども議論された。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、スーパービジョンを行った。実際のピア・スーパービジョンの内容は議論の性質上割愛させていただくが、自己紹介を交え、なごやかな雰囲気の中、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。この場所に来て、私は一人ではない、ということが確認できてうれしかった、という声も聞かれた。

グループ発表の後、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）

が総括を語られた。日々の働きの中でクライアントと向き合い悩むことを、むしろ大切にしていた
だきたい、また、この会をよりよく発展させてほ
しい、とのお薦めをいただいた。閉会の挨拶を中
村磐男氏（聖学院大学人間福祉学部特任教授・人
間福祉スーパービジョンセンター長）が担当され、
この会の親密な雰囲気をぜひ大切にいただき
たい、と締めくくられた。

出席者23名（講師含む）。

（報告者：五十嵐 成見 [いからし・なるみ] 聖学
院大学大学院博士後期課程）